

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:79.

血管撮影室における全身麻酔下脳血管内手術の取り組み

鈴木 智美、渡邊 香留、平 千亜紀、和田 始

血管撮影室における全身麻酔下脳血管内手術の取り組み

旭川医科大学病院 光学医療診療部・放射線部 ○鈴木 智美、渡邊 香留、平 千亜紀
脳神経外科 和田 始

【キーワード】 全身麻酔 脳血管内手術 チーム医療

【はじめに】

当院では年間約 60 例の脳血管内手術をハイブリット手術室で行っている。血管撮影室では局所麻酔治療が主であったがバイプレーン装置導入に伴い、全身麻酔下脳血管内手術を開始した。脳血管内手術を血管撮影室で施行するための、安全で専門性の高いチーム医療を目指した実践内容を報告する。

【実践・結果】

- 1) 機材セットアップ：装置の動きと室内の物品の配置・患者・スタッフの動線を関連部署で確認した。アームの動き・機材のラインや点滴刺入部が見えるよう透過性のある覆布を取り入れた。
- 2) 全身麻酔に対応した物品管理：麻酔関連物品や挿管困難対応物品をまとめ専用カートを作成した。薬剤は麻酔科・薬剤部と検討しセット化した。
- 3) 手術体位と褥瘡予防：体圧分散マットを使用し良肢位の保持・神経損傷予防を行った。皮膚を保護してルートやライン等による医原性褥瘡を予防した。

4) 安全チェック(タイムアウト)：麻酔開始前・局所麻酔前・退室前チェックを導入した。

5) 体温管理と全身管理：室温の調整と温風式加温装置を使用し末梢温と膀胱温のモニタリングを行い、体温管理をした。麻酔科と連携し患者の全身状態を観察した。

6) チーム医療：麻酔科・脳外科・病棟・放射線技師・臨床工学技士・薬剤部と連絡調整、学習会やスタートアップミーティングは看護師が中心となって行った。安全チェックを用いた情報共有を行った。

【考察】

血管撮影室における脳血管内手術はチーム医療である。今回 IVR 看護に加え周手術期に準じた物品や環境の整備、麻酔に関連した全身管理の知識獲得と実践を行った。さらに他職種の専門性を尊重し、協働したことで円滑で安全・安楽な脳血管内手術につながったと考える。